

慢性腎臓病(CKD)予防スキルアップ研修会



ふじみ野市における 慢性腎臓病(CKD)予防事業について



ふじみ野市PR大使「ふじみん」

令和8年1月15日(木)
ふじみ野市保健センター

ふじみ野市について



人口	114,530人 (令和7年12月1日時点)
国保被保険者数	17,258人 (令和7年12月23日時点)
特定健診受診率	45.6% (令和6年度)
特定保健指導 実施率	28.5% (令和6年度)

2005年(平成17年)に旧上福岡市と旧大井町が合併し「ふじみ野市」が誕生。



慢性腎臓病予防事業の背景

H30年度データヘルス計画(保健事業の実施計画)に基づき、医療費分析を実施

医療費に占める上位5つの疾病

1 循環器系の疾患

2 がん

3 内分泌系の疾患

4 筋骨格系の疾患

5 腎疾患



各疾病と腎臓の関連性

高血圧の重症化による腎機能の低下

糖尿病の重症化による腎機能の低下

腎疾患のうち約8割がCKD

慢性腎臓病予防事業の経過

平成20年
特定健診
開始

平成23～24年
保健所の「地域・
職域推進事業」の
支援を受け、腎
臓への取り組み
を強化する。

- CKDリスク者への
個別支援
- 職員向け学習会
- 腎専門医個別相談会
- 市民向け講演会

平成23年
特定健診の項
目にクレアチ
ニン値・尿酸
値を追加

平成25年
腎専門医に
よる市民向
け講演会の
開催

腎臓病重症化予防(保健指導推進事業)の取り組み

1. CKDリスク者への個別支援
2. 職員向け学習会
3. 腎臓専門医個別相談会
4. 市民向け講演会



ふじみ野市PR大使「ふじみん」

1. CKDリスク者への個別支援

原疾患		蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病関連腎臓病		尿アルブミン定量 (mg/日)		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
		尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)		30未満	30~299	300以上
高血圧性腎硬化症 腎炎 多発性嚢胞腎 その他		尿蛋白定量 (g/日)		正常(-)	軽度蛋白尿(±)	高度蛋白尿(+~)
		尿蛋白/Cr比 (g/gCr)		0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (mL/分/ 1.73m ²)	G1	正常または高値	≥90		血尿+なら紹介, 蛋白尿のみならば生活指導・診療継続	紹介
	G2	正常または軽度低下	60~89		血尿+なら紹介, 蛋白尿のみならば生活指導・診療継続	紹介
	G3a	軽度~中等度低下	45~59	40歳未満は紹介, 40歳以上は生活指導・診療継続	紹介	紹介
	G3b	中等度~高度低下	30~44		紹介	紹介
	G4	高度低下	15~29		紹介	紹介
	G5	高度低下~末期腎不全	<15		紹介	紹介

訪問や手紙送付などの支援を実施。

状況に応じて、受診勧奨や保健指導を行っている。

手紙・電話支援

訪問支援

(※2年関わりのある人を除く)

参考:CKD診療ガイド2024

2.職員向け学習会

目的

保健指導の質の向上、有益な情報を市民に提供するため。

対象

保健師・管理栄養士(常勤・会計年度職員・委嘱者)

内容

腎臓専門医による学習会や事例検討会を実施。

参加者

12人



3. 腎臓専門医個別相談会

目的

腎臓専門医への相談の機会を提供し、正しい知識の普及や生活習慣の改善を通じて、腎臓病の予防・重症化予防につなげる。

内容

- ・腎臓専門医による個別相談
- ・保健師・管理栄養士による個別相談



対象

重症化予防事業対象者のうち相談を希望する人(4人×2日間)

3. 腎臓専門医個別相談会(参加者の声)

相談後、腎臓専門
医を受診したとこ
ろ、内服薬が大幅
に変更となった。

相談してよかった。
今後の注意点が
具体的に分かった。

今後に対する
モチベーション
が上がった。



今までもやもや
していたところ
がクリアになった。

4. 市民向け講演会

目的

生活習慣病の予防が腎臓を守ることに繋がることを市民に周知するため実施。

講師

年度	講師
R5年度	腎臓専門医
R6年度	糖尿病専門医
R7年度	循環器専門医

実績

日時:令和7年9月28日(日)

講師:市内循環器専門医

参加者:67名

腎臓病重症化予防(保健指導推進事業)の効果

- 訪問支援者のeGFR維持率
(目標値 33.0%)

年度	eGFR維持率
R4年	29.9%
R5年	32.0%
R6年	44.4%

- 腎臓専門医個別相談会の利用により、
早期治療につながった。
- ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを
組み合わせ、腎疾患の重症化予防に取り組んでいる。

課題

- 重症化してからの対応でなく、より早期の段階から予防に取り組む必要がある。
- CKDは自覚症状が乏しいため、受診や生活改善が後回しになってしまうことが多い。関心を高めるための効果的なアプローチ方法の検討が必要である。
- かかりつけ医と腎臓専門医との間で、CKDに対する認識や対応に差異を感じる場合がある。専門医への紹介のタイミングや医療連携の強化が課題である。

ご清聴
ありがとうございました



ふじみ野市PR大使「ふじみん」